

日本特別ニーズ教育学会 2026 年度中間集会（最終案内）

2026 年 6 月 11 日

中間集会準備委員会委員長 藤井慶博（秋田大学）

準備委員 能田昂（秋田大学）

1. 開催にあたって

日本特別ニーズ教育学会 2026 年度中間集会は、秋田大学（秋田県秋田市：JR 秋田駅から徒歩 20 分、バス利用で約 8 分）にて対面で行います。オンライン配信はありません。

午前中は準備委員会企画シンポジウム、ランチセッションとして研究委員会主催の若手チャレンジ研究会（卒論・修論デザイン発表会、報告者は学部・専攻科・修士課程学生限定）を行います。午後は研究委員会企画の課題研究「『戦争・核・平和』と特別ニーズ教育」を実施します。また、総務委員会（社会貢献 WG）企画として、秋田県内の中学生・高校生を対象とした招待企画も実施します。多くの皆様のご参加と、ご関係の皆様へのご周知にご協力いただけましたら幸いです。

2. 開催概要

①日時 2026 年 6 月 28 日（日）9：30～16：15

②参加費・参加申し込み方法

- ・会員 1,500 円 ・非会員 1,500 円 ・若手チャレンジ研究会発表者 1,500 円
- ・学部学生 無料 ・高校生・中学生 無料

*Peatix 申し込みページ URL：<https://snechukanakita2026.peatix.com>

*チケット販売サイト Peatix にて事前の申し込みと参加費のお支払いをお願いします（※当日の参加受付はありません）。申し込みいただきますと、自動的に受領確認メールが送信されます。申し込み期間は 6 月 19 日（金）までです（コンビニ、ATM でのお支払いをされる方は申し込み・支払い期日が 1 日前となりますのでご注意ください）。



*高校生・中学生の方は Peatix ではなく、下記（項目 6）の Google フォームよりお申し込みください。

③参加申込メ切 6 月 19 日（金）

④会場 秋田大学 3 号館 60 周年記念ホール（3-145）

〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町 1-1

⑤問い合わせ先 秋田大学教育文化学部 能田昂 e-mail：subaru.noda.1230@outlook.com

⑥後援 秋田県教育委員会・秋田市教育委員会 ⑦共催 秋田大学教育文化学部

<アクセス>

新幹線：東京駅→秋田駅 秋田新幹線「こまち」（約 4 時間）。

秋田駅から徒歩約 20 分、バス利用で約 8 分。

航空機：羽田空港→秋田空港 JAL・ANA（約 1 時間）

大阪（伊丹）空港→秋田空港 JAL・ANA（約 1 時間 15 分）

秋田空港からはリムジンバスで JR 秋田駅まで約 40 分。

※大学構内に学外者向けの駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください。

<昼食について>

当日（6月28日、日曜日）は大学生協食堂の営業はありません。会場周辺にはコンビニエンスストア等がありますが、昼食はあらかじめご準備の上お越しいただくことをお勧めします。

3. プログラム

9:00～ 受付開始

9:30～9:45 オープニングセッション

9:45～11:45 準備委員会企画シンポジウム

11:45～12:15 中高生招待企画説明

12:30～13:30 ランチセッション・研究委員会主催「若手チャレンジ研究会」

13:30～16:00 学会理事会・研究委員会企画 課題研究

「『戦争・核・平和』と特別ニーズ教育」

16:00～16:15 クロージングセッション

4. 準備委員会企画シンポジウム（9：45～11：45）

「人口減少時代における特別支援教育の課題—秋田発・病弱教育の実践から考える—」

企画趣旨

日本全国で最も少子高齢化・人口減少が進行する秋田県が直面する課題は、秋田だけのものではありません。教員不足、専門家の偏在、リソースの制約、広域をカバーする支援体制の構築——これらは今後、日本全体の特別支援教育が直面する課題の「先取り」です。

本シンポジウムでは、秋田県における病弱教育の実践を具体的な事例として取り上げます。病弱教育サポートセンターきらり☆の活動、ICTを活用した地域連携の実践、医療との協働を通じて、人口減少社会における特別支援教育の可能性と課題を検討します。病弱教育という一領域の問題にとどまらず、限られた資源のなかで特別なニーズを有する子どもの学びをどう保障するかという、特別支援教育全体に共通する問いとして議論を深めたいと思います。

人口減少は「危機」であると同時に、従来の枠組みを超えた新しい教育のあり方を模索する「機会」でもあります。人口減少「先進地」である秋田の取り組みを、全国の関係者と共有し、これからの特別支援教育のあり方を議論したいと考えています。

シンポジスト

藤井慶博（秋田大学教育文化学部）：ICTを活用した病弱療養児等の学習支援・社会教育施設体験・生涯学習事業の取り組み

藤井奈緒子（秋田県立秋田きらり支援学校）：病弱教育サポートセンターきらり☆における広域支援体制の実践と課題

豊野美幸（秋田県立医療療育センター副センター長・小児科）：人口減少社会における教育と医療の協働について

指定討論

高橋幸子（國學院大學人間開発学部教授）

高橋浩平（前東京都杉並区立桃井第一小学校長）

5. 学会理事会研究委員会企画 課題研究 (13:30~16:00) 「『戦争・核・平和』と特別ニーズ教育」

企画・進行 高橋智 (東海学院大学/理事・研究委員長)

企画趣旨

現在進行形のロシアによるウクライナ侵攻、ガザにおける人道危機、アメリカによるイラン侵攻に象徴される現代の戦争・武力紛争は、子どもを直接的・間接的に巻き込み、生命の危機のみならず、住居・食料・医療といった基礎的生活条件の喪失、学校教育の中断、心理的外傷や発達機会の剥奪等に伴う発達困難・リスクをもたらしています。

障害・疾病等の特別なニーズを有する子どもにとって、戦争・紛争下の激しい環境変化は一層深刻な影響を及ぼします。しかし、「『戦争・核・平和』と特別ニーズ教育」の検討はほとんど未着手の課題です。第11期理事会では、子どもの「いのち・生存・生活・学習・発達」を脅かす人類最大の危機でもある「戦争・核・平和」問題に特別ニーズ教育の視点から正面から向き合うべく、第1年次の課題研究テーマとして本テーマを設定しました。

本課題研究は、2026年10月の第32回研究大会(長崎大学・鎮西学院大学共催)における課題研究、『SNEジャーナル』第32巻特集と連動しています。中間集会では「戦争・核・平和」と特別ニーズ教育研究の視点と方法に関する報告、および核実験被害と子どもの発達困難に関する具体的事例の報告を行い、議論を深めます。

報告

石井智也(兵庫教育大学)・能田昂(秋田大学):「戦争・核・平和」と特別ニーズ教育研究の視点と方法

平林今日子(京都大学):疾患・障害を有する子どもの核実験被害—カザフスタン・セミパラチンスクを事例に—

6. 総務委員会(社会貢献WG)企画「Project for Next SNE Researcher」

特別ニーズ教育学会は設立30年を超え、研究・実践コミュニティとしてさらなる発展が求められています。本企画では、障害、病気、貧困、不登校、戦争など、人々が直面する様々な困難と、そのなかで生き・学び・育つことを支える教育や福祉の営みに関心のある中学生・高校生を中間集会に無料でご招待します(現在、約15名ほどのお申込みを頂いています)。大学の研究者や学校・医療・福祉の実践者と直接交流しながら、社会の課題と向き合う研究・実践の現場を体感できる機会です。当日は全プログラムに参加いただけるほか、ランチ時間には交流会(20分程度)も予定して参加者には参加証を発行します。

◇参加費 無料(引率保護者も無料)

◇参加条件 事前申し込み(下記フォームより)

◇申し込み締切 2026年6月14日(日)17:00

◇申し込みフォーム <https://forms.gle/UdSio9IAztQB9n7N9>

◇問い合わせ 田中謙(日本大学) tanaka.ken@nihon-u.ac.jp

※参加に係る交通費・宿泊費は参加者側のご負担となります。

7. 2026年6月中間集会「若手チャレンジ研究会」

学会理事会研究委員会「若手チャレンジ研究会」担当理事

武井哲郎（立命館大学）・赤木和重（神戸大学）

学部・特別専攻科・教職大学院・修士課程の学生が、卒業論文・修士論文等の研究デザインについて発表し、各発表の内容・方法に詳しいコメンテーターより直接助言を受ける場です。完成した研究ではなく、進行中の研究デザインを持ち寄り、専門家との対話を通じて研究を深めていくことを趣旨としています。今回はカナダのインクルーシブ教育や不登校支援・主権者教育をテーマとする学部生1名・大学院生2名が発表予定です。

① 林 滉之介（秋田大学教育文化学部特別支援教育コース4年）

「カナダ・NL州におけるインクルーシブ教育の理念と実践に関する研究—学習困難のある児童生徒への支援に着目して—」

コメンテーター：吉田茂孝（大阪教育大学）

② 山口 梨沙（名古屋大学大学院教育発達科学研究科）

「不登校支援の地域化を捉える教育福祉論の試論的検討—地域実践と学校教育上の課題の接続に着目して—」

コメンテーター：武井哲郎（立命館大学）

③ 相馬 慈（秋田大学大学院教育学研究科専門職学位課程2年）

「知的障害特別支援学校における主権者教育の充実に向けた検討—子ども・教師・選挙管理委員会の三者に対する聞き取りを中心に—」

コメンテーター：伊藤修毅（日本福祉大学）

◇発表について

発表時間は各々10分、その後のコメンテーターからのコメント・質疑応答が8分、計18分です。各発表のタイトル・内容に合わせて、内容や当該研究方法に詳しいコメンテーターより助言を受けることができます。適切なコメントを受けるために、当日資料を6月14日（日）までに提出を求めます。提出方法等の詳細は、発表申し込みをされた方に別途お知らせいたします。発表抄録の提出、発表、質疑応答の完了をもって、発表の成立といたします。発表の際にパワーポイントを使用される方はパソコンをご持参ください。プロジェクターとの接続端子はHDMI端子となりますのでご注意ください。発表当日、資料を配布される方は40部の持参をお願いします。

◇時間・発表者数

12:30～12:32 挨拶、若手チャレンジ研究会の趣旨説明等（座長）

12:32～12:50 発表（1）

12:51~13:09 発表(2)

13:10~13:28 発表(3)

※会場・3号館 60周年記念ホール(3-145)は以下の場所となります。



キャンパスガイドマップより抜粋

<https://www.akita-u.ac.jp/honbu/info/magazine/guide/pdf/campusmap2014.pdf>